

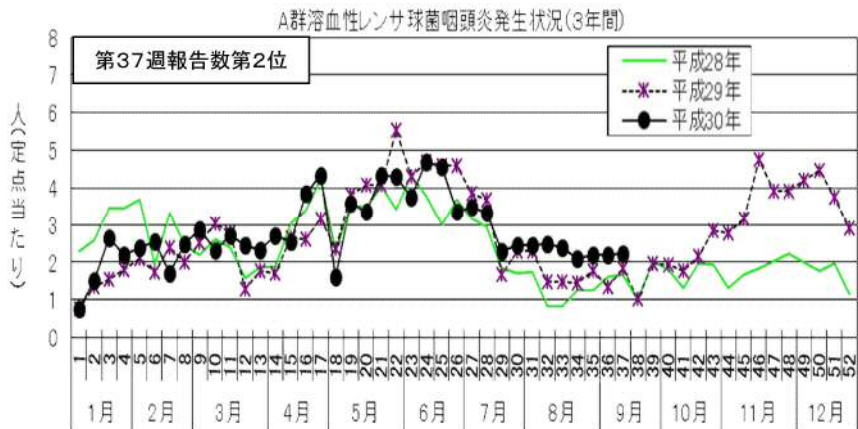
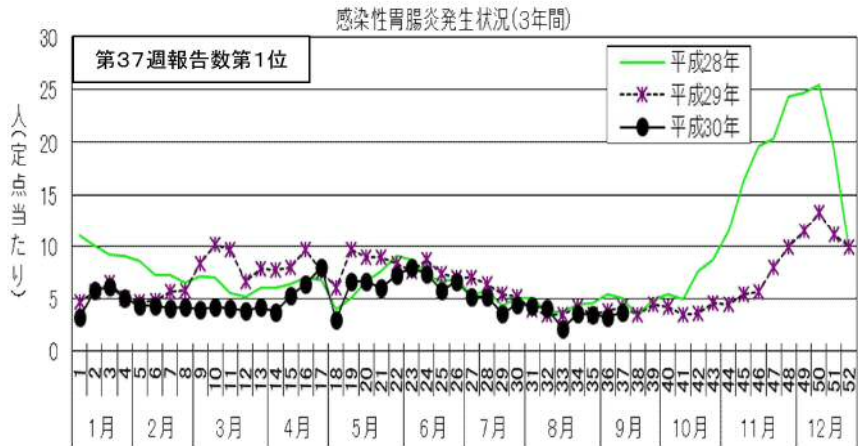
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年9月10日（月）～平成30年9月16日（日）〔平成30年第37週〕の感染症発生状況

第37週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 伝染性紅斑でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.65人と前週（3.24人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.22人と前週（2.19人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。伝染性紅斑の定点当たり患者報告数は1.73人と前週（1.92人）から減少しましたが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

★結核菌★
テーバーくん



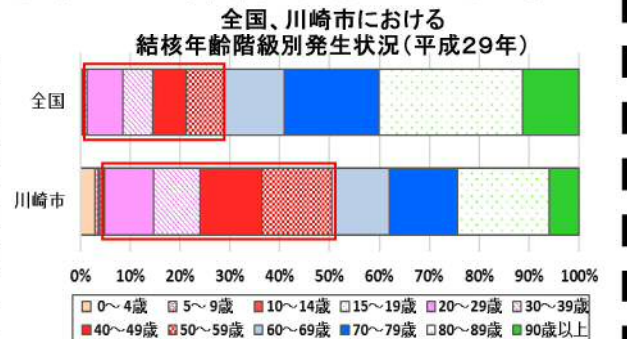
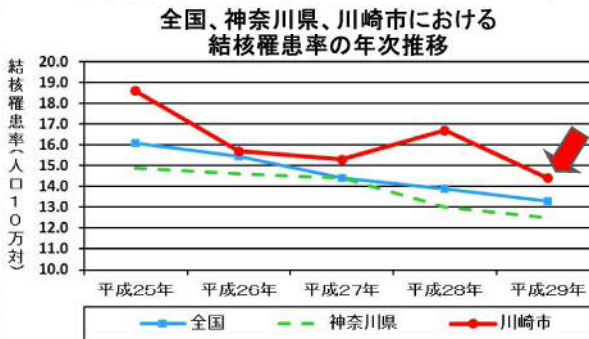
結核の早期発見のため、定期的に健康診断を受けましょう！

平成30年9月24日から9月30日までは結核予防週間です。

結核は罹患率が年々減少しているものの、今でも我が国では年間約17,000人の新しい患者が発生し、約2,000人が命を落としている主要な感染症です。

川崎市では、平成29年の罹患率が人口10万人当たり14.4人と減少はみられるものの、全国（13.3人）よりもやや高く、特に20歳代～50歳代の割合は全国に比べて高い状況です。

もし結核だったとしても、早期に発見できれば本人の重症化が防げるだけでなく、大切な家族や友人等への感染の拡大を防ぐことができます。2週間以上続く咳やたん、微熱、倦怠感などがみられる場合は、早めに医療機関を受診しましょう。



結核を発症しても初期段階ではほとんど症状（微熱、倦怠感、長引く咳やたん等）が表れず、特に高齢者では気づかぬうちに進行してしまうことがあります。結核が進行すると、咳やくしゃみ等によって空気中に結核菌が飛び散り、その結核菌を吸い込むことにより周りの人に感染が広がります（空気感染）。